

# 航空利用の概況

## 長崎空港利用者数の推移

(単位:人)

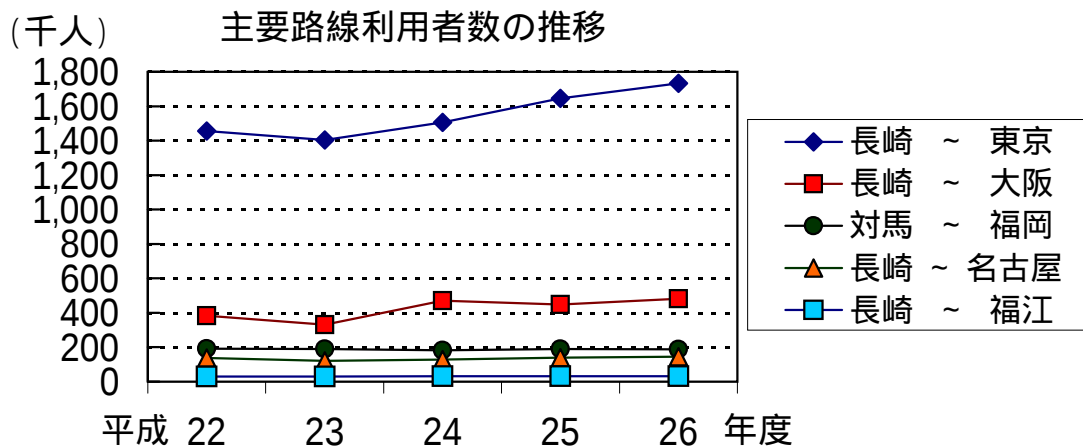
| 区 分           | 22年度      | 23年度      | 24年度      | 25年度      | 26年度      |
|---------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 国 内 線         | 2,251,282 | 2,392,236 | 2,645,607 | 2,769,292 | 2,878,834 |
| 国 際 ( 定 期 ) 線 | 29,704    | 15,500    | 29,045    | 32,692    | 72,751    |
| チャーター便        | 3,181     | 8,228     | 2,373     | 10,058    | 3,301     |
| 乳 幼 児         | 45,945    | 48,287    | 50,056    | 51,012    | 53,811    |
| 計             | 2,330,112 | 2,464,251 | 2,727,081 | 2,863,054 | 3,008,697 |

## 主要路線利用者数の推移

(単位:人)

| 区 分         | 22年度      | 23年度      | 24年度      | 25年度      | 26年度      |
|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 長 崎 ～ 東 京   | 1,455,222 | 1,404,471 | 1,506,327 | 1,646,025 | 1,732,597 |
| 長 崎 ～ 大 阪   | 382,157   | 331,241   | 470,513   | 448,273   | 481,429   |
| 対 馬 ～ 福 岡   | 191,760   | 189,961   | 182,226   | 190,346   | 187,813   |
| 長 崎 ～ 名 古 屋 | 136,944   | 121,422   | 127,983   | 138,930   | 144,555   |
| 長 崎 ～ 福 江   | 29,571    | 28,834    | 31,452    | 32,260    | 31,819    |

注) 路線別利用者数に乳幼児は含まない。



本県における航空の歴史は、昭和35年4月、大村空港を国管理空港（旧第二種空港）として供用開始したことに始まり、昭和50年には世界初の海上空港「長崎空港」として生まれ変わり、昭和55年には滑走路が2,500mから3,000mに延長された。県内には長崎空港のほか、福江空港、壱岐空港、対馬空港の4空港に定期便が就航しており、全国の主要都市を始め本土と離島とを結ぶ航空網を形成している。

長崎空港は本県の空の玄関として、国内線は東京、大阪（伊丹、神戸、関西）、名古屋（中部）、沖縄など9路線39便、国際線は上海・ソウル（仁川）線の2路線週2便（ソウル線については、10月25日～運休中）となっている。利用者数は平成26年度実績で3,009千人（国内線2,879千人、国際線（チャーター便含む）76千人、乳幼児54千人）であった。

また、離島の空港は、福江空港と対馬空港は長崎と福岡、壱岐空港は長崎と結ばれており、平成26年度の利用者数は425千人（乳幼児は含まない）で、生活路線としての役割を果たしている。

路線数及び便数は平成27年12月1日現在の数字。

（県新幹線・総合交通対策課）